

発達の段階に応じて身に付けたい食習慣について

1 はじめに

本委員会では、平成22年度に小・中・高等学校の抽出校（各12校）を対象に「学校における食育・生活習慣実態調査」を実施し、平成23年度に調査結果のクロス集計を行った。また、平成24年度には、小・中学校の抽出校（小：4校、中：2校）を対象に「食・生活習慣実態調査」を実施し、その結果の分析を行うとともに、学校での指導の方向性を明らかにすることができた。そして、平成25年度には、前年度の調査結果と身長・体重・血液検査の結果を合わせて集計し、分析・考察を行った。そして、「発達の段階に応じて身に付けさせたい食習慣」のモデル（案）を作成した。このモデル（案）には、幼・小・中・高等学校の児童生徒等の生活状況の特徴や目指す姿、指導の方向性を示した。平成26年度は、学校における食物アレルギー対応が喫緊の課題であったことから、学校給食における食物アレルギー対応について検討した。

今年度は、平成25年度に作成したモデル（案）に、家庭へ啓発する内容を項目に加え、学校等での取組事例を交流し、学校等や家庭の取組で身に付けさせたい食習慣やその方途を明らかにすることを目指し協議した。

2 委員会での主な取組内容

（1）第1回委員会（6月17日）

平成25年度に作成したモデルを基に、第2次岐阜県食育推進基本計画を参考に修正した「発達の段階に応じて身に付けさせたい食習慣（案）」を提案し、委員からは次のような意見をいただいた。

- ・幼児児童生徒一人一人の実態には違いがあるが、記載する内容は個別的ではなく総論的にまとめる
- ・小学校では、第1～6学年の発達の段階の幅を考慮した内容にする。
- ・幼児児童生徒が目指す姿に基づき、学校による指導だけでなく家庭に啓発していく内容も

位置付ける。

（案）の内容を検証していくために、各委員がそれぞれの学校等で（案）に基づいた実践を行い、第2回委員会で再度、交流することを確認した。

（2）第2回委員会（1月29日）

第1回委員会での協議を踏まえ、「発達の段階に応じて身に付けさせたい食習慣（案）」について検討した。委員からは次のような意見をいただいた。

- ・食習慣を単独で捉えるのではなく、生活習慣の中の食習慣と捉え、内容を考慮する。
- ・小学校は、第1～4学年と第5、6学年の段階に分けて内容を整理する。
- ・食事前の手洗いと衛生面は大切であるためどの段階にも位置付ける。
- ・実際に食事を準備する家庭に対し、学校がどのように啓発していくかが重要である。
- ・青年期に身に付けてほしい食習慣を据えながら、幼児期や学齢期の指導内容を明確にしていく必要がある。

このような協議での意見を基に作成した「発達の段階に応じて身に付けたい食習慣」を次頁に掲載した。今年度は、特に家庭への啓発内容を明らかにすることができた。来年度は、各学校等の実践例等を交流したりしながら、家庭への啓発方法について検討を進めていくことが確認された。

3 おわりに

今年度は、幼・小・中・高等学校の段階において、家庭に啓発していく内容を協議することができた。しかし、その内容の啓発の方途については課題として残っている。

来年度は、各学校等の実践例等を基に委員会で協議し、より効果的な啓発の方途を明らかにしていきたいと考える。